自治体改善の輪 通信 2021 No15

《9/26(日) 第2回 つながり研究会開催》

地域や組織の課題解決にむけた「つながり」を大切に

《「点」と「点」を繋いで「線」にする第一歩》

この「つながり研究会」では、地域や組織の課題を解決するために「点」であるあなたが組織内の幹部、部局、組織の外の人「点」にアプローチし、つながって「線」をつくり、経営改善を起動する取組を各々の実践者とともに、研究します。

私たち自治体職員は、ひとりで良い仕事をすることは不可能で、詰まるところ「『つながり』を大事にすることが大切なんじゃない？」という気付きから、まずは、私たち自治体改善マネジメント研究会の理事を担っている自治体職員がスピーカーとなって話題提供し、対話しませんか？という、研究とは言え、堅苦しくおこなうのではなくリラックスした雰囲気で、オンラインでの「つながり」の場を設けました。

《第 2 回テーマ「地域おこし協力隊が創り出す新たな『結ぶ』価値」》

ナビゲーター：寺沢　隆宏（長野県須坂市 商業観光課 課長補佐・特定非営利活動法人自治体改善マネジメント研究会理事）

プロフィール：長野県須坂市役所に平成 8 年(1996)年度入庁
財政～農林～情報～企画～地銀研修～企画～行革～商業に在籍
平成 27 年(2015)年度自治体改善マネジメント研究会　第 3 期事例研究会参加
平成 29 年(2017)度から、商業観光課の所属となり、行政改革担当の経験をいかして、現場担当部署からの改善活動に動き始めている。

《住民～地域おこし協力隊～行政によるつながり》

1 須坂市の現状・課題

- 商業の現状
  - ✓ 高齢化・後継者不足
  - ✓ 市外への買い物客の流出
  - ✓ 商店街(会)の機能低下、加入事業者減
  - ✓ 市街地の人口減少
  - ✓ 個店より大型店等への客の流出
- 住民と行政の関係
  - ✓ 信頼感薄い
  - ✓ 言ってもどうせ聞いてくれない、諦め
  - ✓ 言いたいことは山ほどある
  - ✓ 貰うもの貰えればいい、役所任せ
  - ✓ 公僕には何言っても構わない
  - ✓ 声の大きい者の意見しか伝わらない
  - ✓ 一緒に対話、行動していない

2 課題解決に向けた手段としての地域おこし協力隊制度活用に至った経緯

- 平成 29 年(2017)年度現場担当部署の商業観光課に異動
- 自分が担当になって
  - ✓ 町に出た、集まる場に出て行った
  - ✓ コミュニケーションの機会を増やした、実行した
- 町に出て、悩み、課題を聞くと・・・、かつての須坂には賑わい、楽しみがあった
- その再現ではなく、今できるかたちの「賑わい創出」、硬直状態打破したいが自分だけでは限度がある
- どうにかならないか悩み、他自治体の取り組みを学ぶ、庁内で相談した→地域おこし協力隊制度担当者より紹介→手段の一つとして制度活用
- 誰かに担ってもらいたい、やってもらうならスキル・↗↘経験を活かして主体的に
- 他力本願、お任せだが、責任を持って任せる

3 地域おこし協力隊制度

- 地域おこし協力隊とは
  - ✓ 過疎化・高齢化等の問題に直面する地方の自治体が、都市住民を受け入れて地域おこし協力隊として委嘱し、「地域協力活動」に従事してもらい、その協力隊員の経費のうち一定額について国から特別交付税による措置がなされる制度
  - ✓ 隊員は、一定期間、地域に居住して、「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組み
- 須坂市での制度導入
- 市街地を中心とした地区における人口減少や高齢化、商業の衰退等の地域課題に対し、地域おこし協力隊による新たな視点や能力、マンパワーを有効活用し、課題解決に向けて対応

4 地域おこし協力隊着任後の活動内容、町の皆さんとの関わり

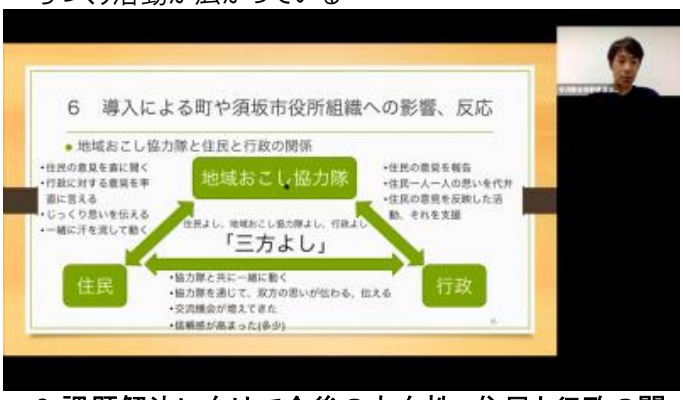
- 協力隊が実行部隊となり、町の皆さんと活動が広がっている
- 空き店舗が新しい名所店に
- 今までできていなかった隊員同士（横）の OBOG（縦）との連携ができている

5 導入による町や須坂市役所組織への影響、反応

- 地域おこし協力隊活動の他、町の皆さんとの関わりの取組みが期待されてきている
- 地域おこし協力隊による一般社団法人設立
- 商業振興に限らず、役所に関することの相談を受けることも多々↙

©2021　特定非営利活動法人　自治体改善マネジメント研究会

↘・職員も協力隊を通じ、町の皆さんとさらに関わり、まちづくり活動が広がっている



6 課題解決に向けて今後の方向性　住民と行政の関係在り方

(1) 課題解決への取組み

- 人口減少対策とはいうが、人を増やすだけでは課題解決にならない
- 個々の強みを生かし、ベクトルを合わせて町の賑わいを生み出していきたい
- さらには、個の力ではなく、町の皆さんとの総合力を発揮できるように ↗

↘・何に向けてか：自論「自分だけでなく家庭、地域、この町のみんなの未来が、「楽（たのしい、らく、やすらぐ、ゆたか）」になる町を目指す

(2) 行政：ベクトル合わせの役、コーディネート

- まちづくりのベクトルが個々バラバラだが、いきなりベクトルは合わせられない
- 役所はベクトル合わせる役、方向性を示す役
- でも役所を相手にしていない、期待していない
- 改めて、その役所がいることを認識、「みんなこっち見て」の段階

(3) 課題

- 外向けには、繋がりできてきている、広まってきている
- 内向け　独りよがりの様相・・・
- 所掌事務ではなく、庁内賛同者を増やす

(4) 仕事に携わる私が大切にしていること

- コミュニケーションが何よりも基本
- 柔軟に見直しながら自分なりの軸を持つ
- 目的なのか手段なのか、本質を捉える（繰り返し仮説でも）
- 覚悟決める
- やってみる、やってもらう、一緒にやる

《感想共有》　～外部視点によるつながりの広がりと深まり～

- ✓ 地域おこし協力隊全員となると難しいが、退任後、少しでも多くの協力隊員が、町で活躍できるようにサポートしていただければ良いと思う
- ✓ 個人的なつながりでのサポート対応までとなっている、組織対応は課題
- ✓ 組織を変える時は、外の力を使うなどはいいやり方
- ✓ ただ、マネジメントは難しくなるが頑張っていただきたい
- ✓ コアとなる都市に隣接している町が、今後どうやって都市経営し続けるか、よそと同じように取り組むより、もう一歩進んだ制度活用ができると良い
- ✓ 退任後定着しなくても、一時でも関わった関係人口となった方が、退任後どう関わってくれるか、情報を送り続けるなど、お互いに関わっていければ良いと思う
- ✓ 長野県全体の自治体も互いに切磋琢磨して色々工夫していて目が離せない
- ✓ 今日聞いた話の中で、楽しく住み続けたいという考えは共感した、知り合いが多いと楽しいので、公務員としても地域の方との繋がりは必要だと思う
- ✓ 地域への愛着が深くなく目先の仕事をしている職員ではなく、町の方々と関わり仕事をしていきたい
- ✓ 地域おこし協力隊という立場を、行政と住民の間に立てる良い立場として、協力隊自身もそれぞれ3者がうまく使って互いに WinWin となれれば良いと思う
- ✓ 地域おこし協力隊制度を十分に活用するには、まだ組織的な動きになっていない
- ✓ 今回の発表を聞いていただき、そのためにも、外とのつながりだけでなく、内部の職員とのつながりを作っていかなければと感じた

《点から面へとつながるステップアップの機会》

この「つながり研究会」は、これまで「自主研」「事例研究会」などに参加する有志が、いきなり組織で公式の「チーム経営研究会」を立ち上げるには及ばない時に、点と点をつないで線にする一歩を踏み出すための場とするイメージです。

一匹狼のとんがり人材の“点”ではなく、「新・事例研究会」もしくは「チームづくり研究会」の“線”から、組織マネジメントに取り組める有志のすそ野を広げ、別途首長を補佐する参謀として首長へのアプローチを図りながら、組織として「チーム経営研究会」の“輪”から、面にする機会を増やしていく流れをつくっていく、点→線→輪→面のステップアップしていく機会を設けてきます。

自治体改善マネジメント研究会では、今後もこのような機会を設けていきますので、是非皆さんも気軽に参加してみてください。

（文責：長野県須坂市　寺沢）

©2021　特定非営利活動法人　自治体改善マネジメント研究会